

サンゴの移植を繰り返す作業に特化するダイバーたち。座間味村は阿蘇島の北沖合一帯の水深約100メートル



阿蘇島臨海研究所の谷口洋基さんからサンゴの移植について説明を受けるダイバーら。座間味村阿蘇漁港



【座間味】座間味村漁業組合が主体となり、阿蘇島臨海研究所と地元ダイビング業者が協力し、十四日から三日間、座間味村の沖合でサンゴの移植作業が行われた。同村阿蘇島の海岸で、道路拡張のための公共工事が十七日から始まるのを前に「海が埋め立てられていくのを見過ごせない」と、地元の人たちが立ち上がった実践した。

同日でも初めての試み「コヤテーブルサンゴ」などで、阿蘇島北側の海岸を移植した。から、阿蘇島沖の北浜、阿蘇・阿蘇間ダイビング（ニシハマ）にエタサンゴ協会は観光客が少な

座間味村で移植作業

埋め立て見過ごせない

サンゴ保護へ動く地元

くなるこの時期に、サの駆除作業も毎日ボラソンの天敵・オニヒトデランディングで行っており、

一日で駆除したヒトデが活動しているが、自然を千匹以上の口もあるとい、守るため今後も継続していくには、行政の協力も必要」と支援を求めている。



埋め立て予定地の深さから移植するサンゴを採取するダイバー。座間味村阿蘇島北海岸（水深20メートル）